

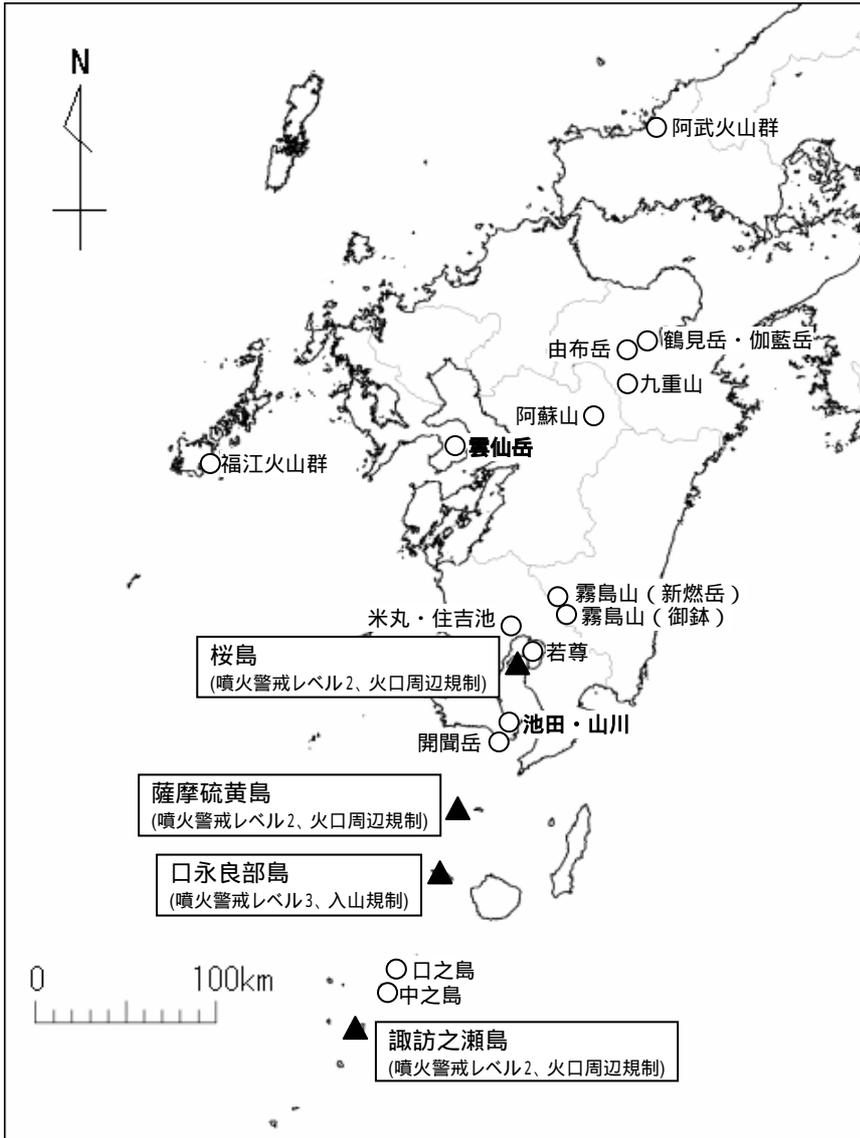
管内月間火山概況及び
雲仙岳の火山活動解説資料
(平成 20 年 12 月)

管内月間火山概況 (平成 20 年 12 月)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (12 月 31 日現在)

- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制) : 口永良部島
- 火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制) : 桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
- 噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常) : 九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山 (新燃岳)、霧島山 (御鉢)
- 噴火予報 (平常) : 阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



凡例

▲ : 噴火警報発表中の火山 ○ : その他の火山

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ (<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 21 年 1 月分)は平成 21 年 2 月 6 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号:平 20 業使、第 385 号)。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

九重山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

中岳第一火口では、23～26 日にかけて、南側火口壁の噴気孔からごく少量の火山灰の噴出が確認されたほか、27 日以降は、南側火口壁の噴気孔で火炎が観測されました。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内では火山灰や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその周辺では火山灰の噴出等に警戒が必要です。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山 (新燃岳) [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰の噴出等に警戒が必要です。

霧島山 (御鉢) [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

南岳山頂火口及び昭和火口では噴火は発生しませんでした。

昭和火口では、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映現象を観測しており、火口内の熱活動が高まっていると考えられます。

今後、昭和火口及び南岳山頂火口の周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石 (火山れき)、降雨時には泥石流や土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

噴煙活動はやや活発で、火山性地震回数はやや多い状態が続いています。

今後、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)]

GPS 連続観測では、9 月以降、新岳火口浅部の膨張を示す変化が観測されています。また、同時期から噴気や火山ガスの放出量が増加し、火山性微動もやや多い状態で推移するなど、火山活動が高まった状態が続いています。

今後、新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の発生が予想されますので、火口から概ね 2 km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

爆発的噴火は 17 回発生し、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期にわたり噴火を繰り返しています。

今後、御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。

雲仙岳の火山活動解説資料(平成20年12月)

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成19年12月1日に噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12月の活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況(図2)
噴煙は白色、ごく少量で高さの最高は50mでした。
- ・地震や微動の発生状況(図2、図3)
火山性地震の発生は2回(11月:2回)と少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況(図4、図5)
GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。
12日に実施した光波測距観測では、火山活動に起因すると思われる変化はありませんでした。
- ・熱観測(図6、図7)
10日に実施した熱観測では、平成新山山頂(溶岩ドーム)の熱異常域の分布に大きな変化はありませんでした。

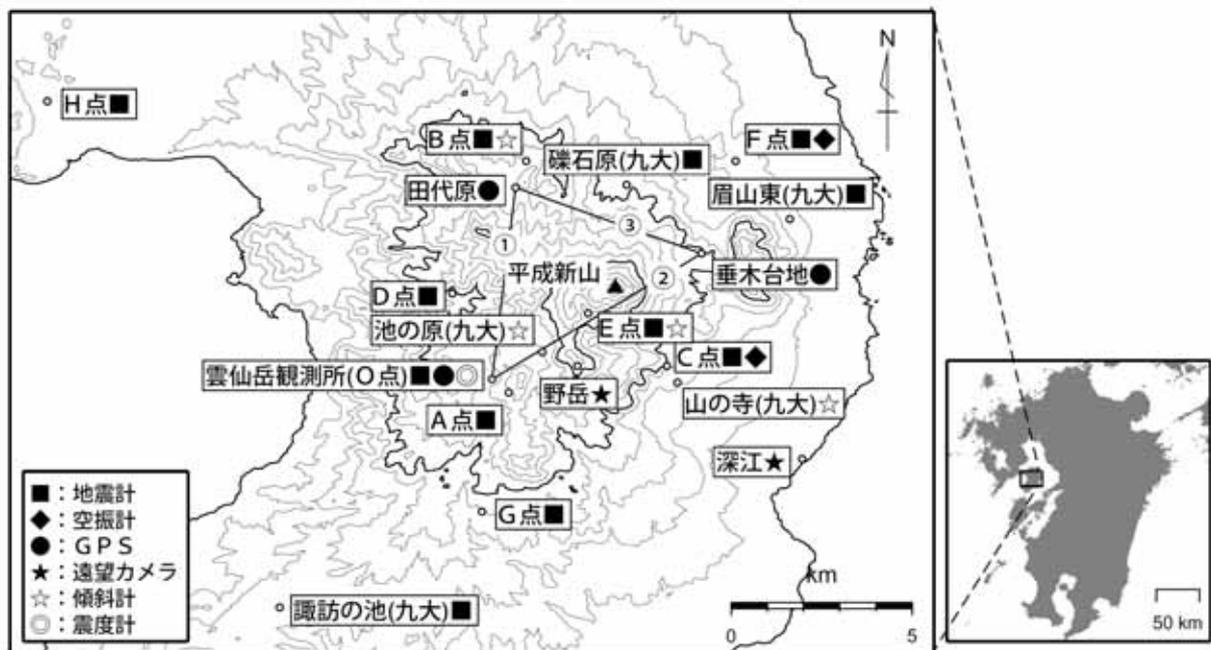


図1 雲仙岳 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、九州大学のデータを使用して作成しています。
地図の作成にあたっては、国土地理院長承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』及び『数値地図10mメッシュ(火山標高)』を使用しています(承認番号:平20業使、第385号)。
この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成21年1月分)は平成21年2月6日に発表予定です。

雲仙岳

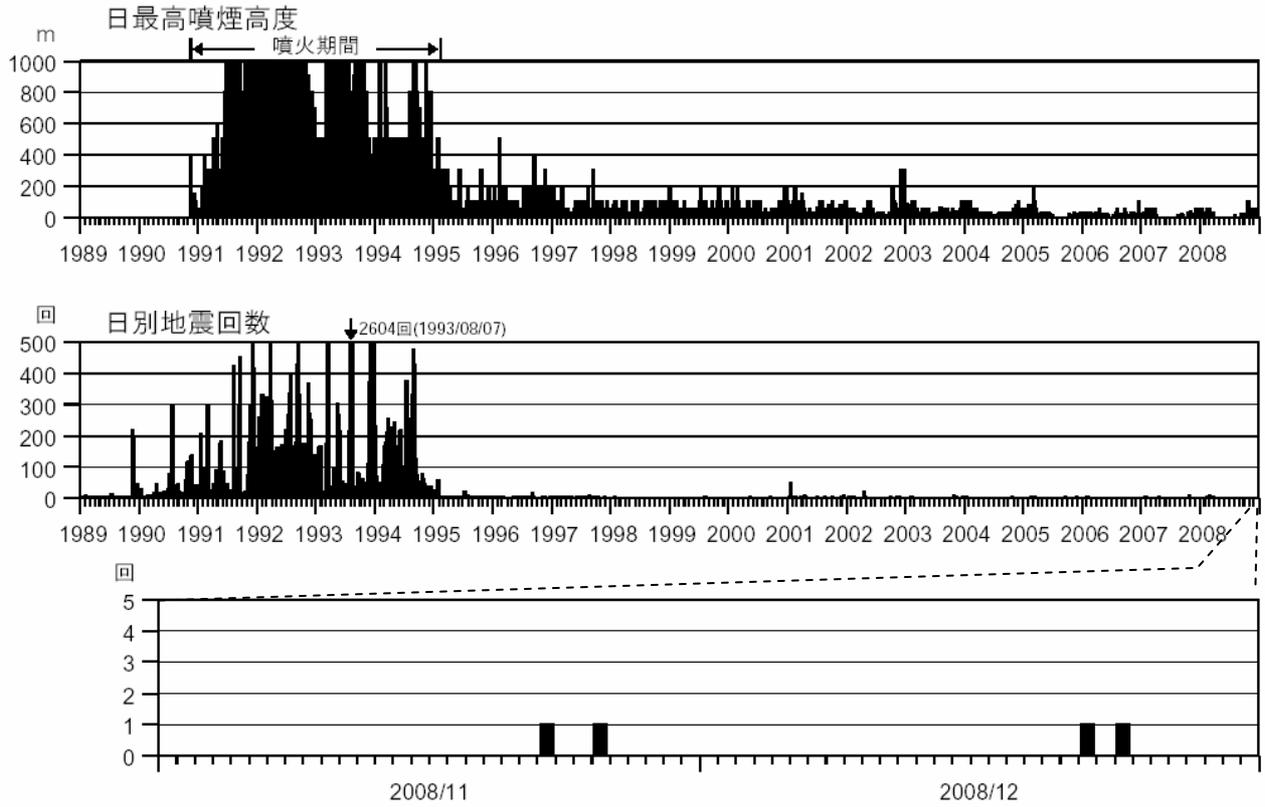


図2 雲仙岳 火山活動経過図(1989年1月~2008年12月)

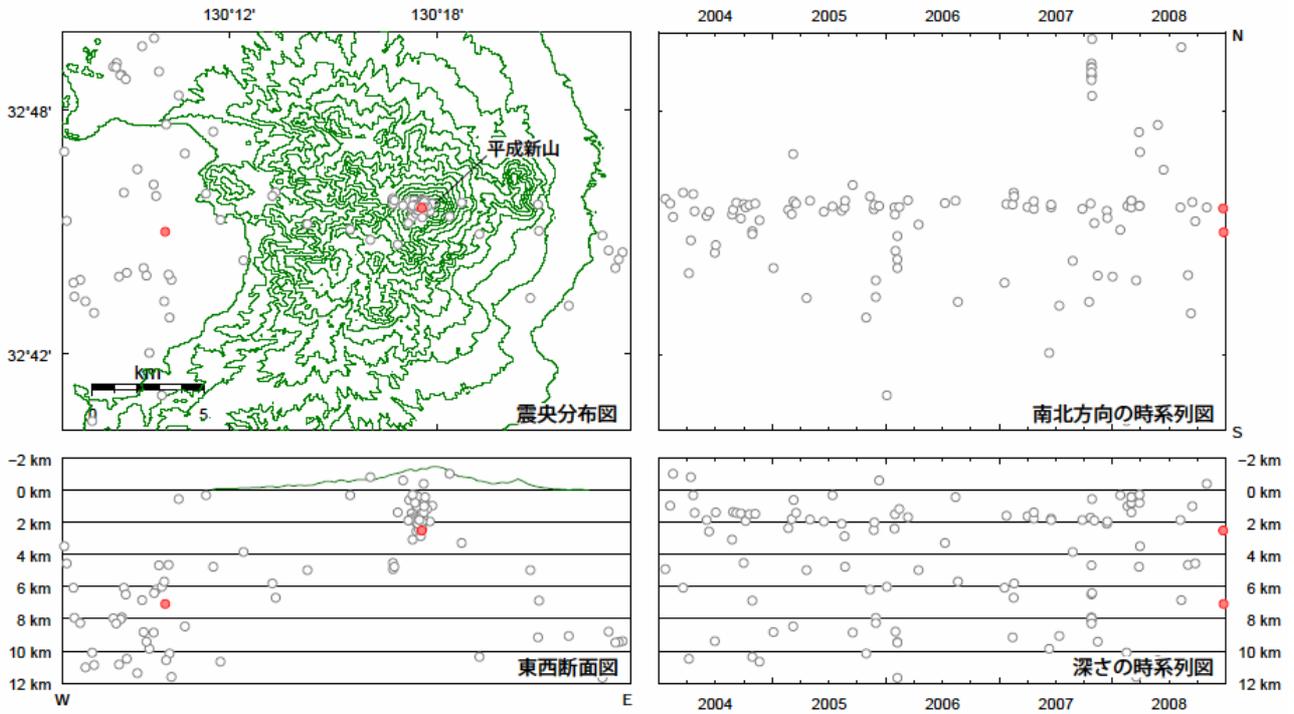


図3 雲仙岳 震源分布図(2004年1月~2008年12月)

震源は、平成新山付近及び平成新山の西側の橋湾付近に求まりました。

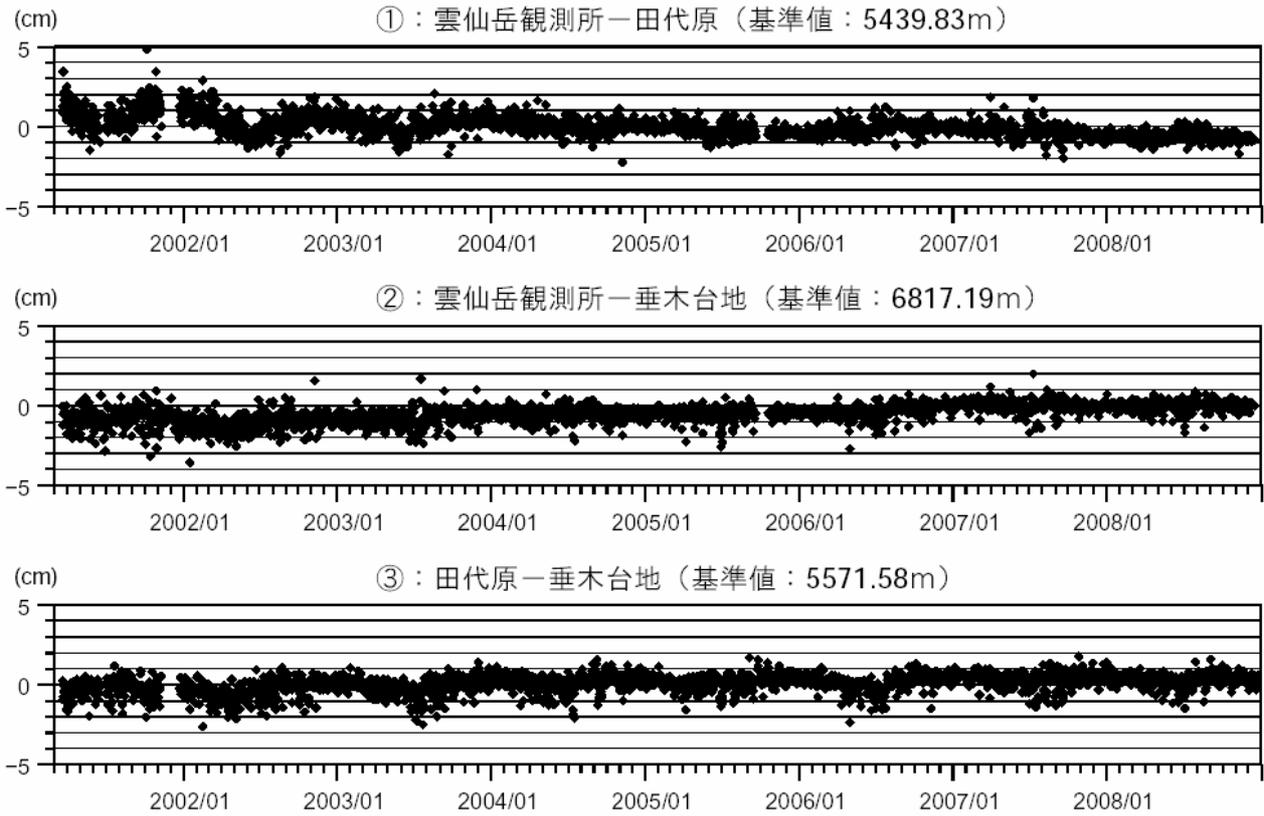


図4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化(2001年3月20日～2008年12月31日)
火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。

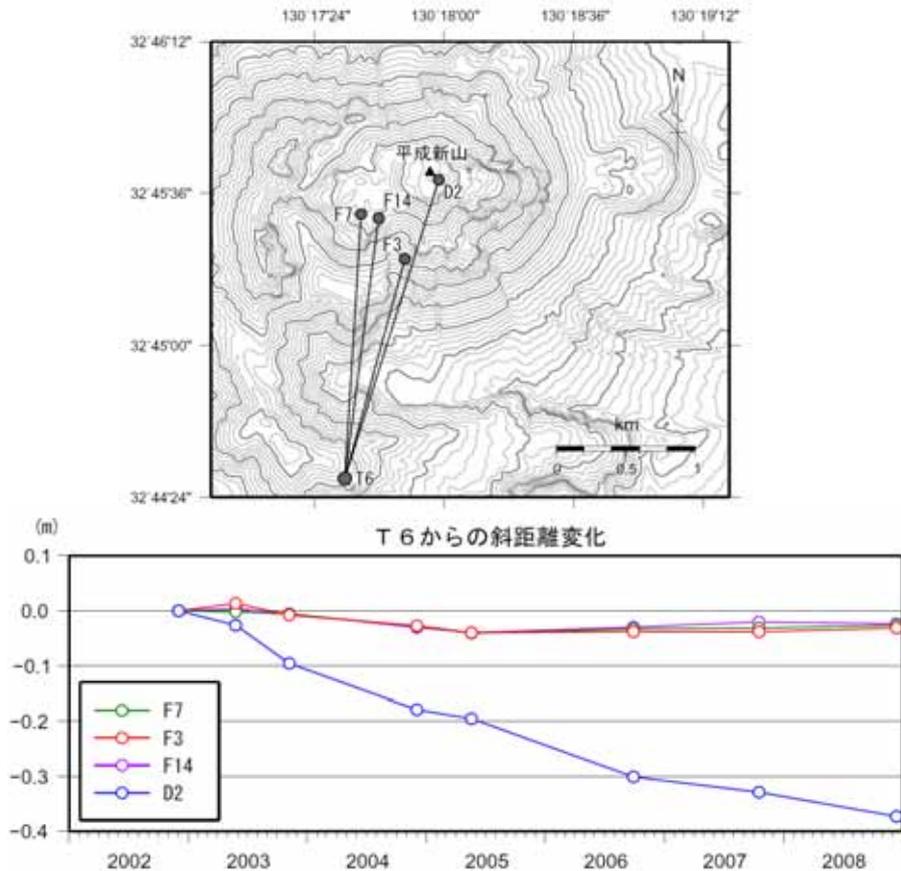
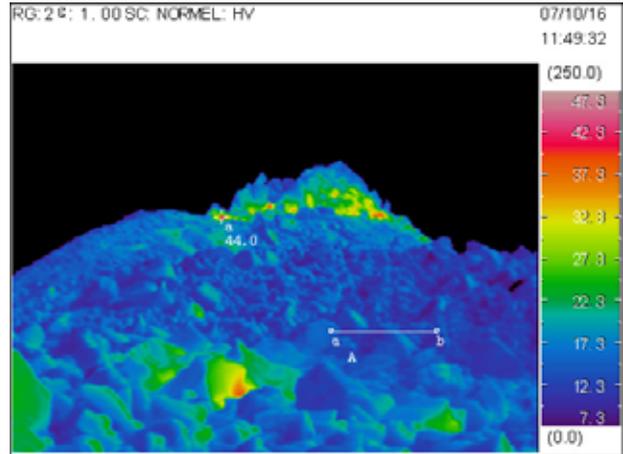
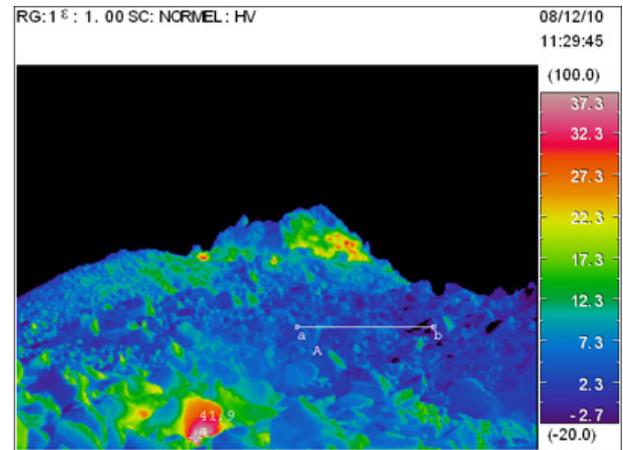


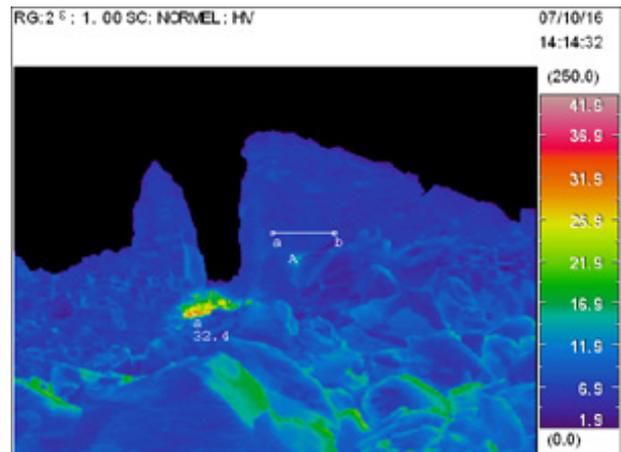
図5 雲仙岳 光波測距観測(2002年12月～2008年12月)
D2観測点の変化は溶岩ドームが自重により沈降しているものと思われます。



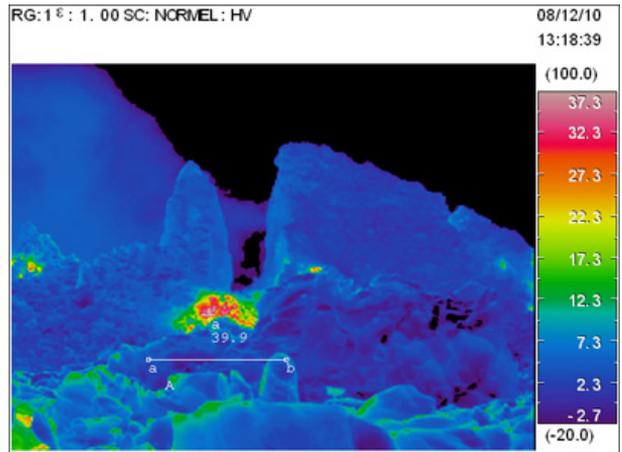
TD1 可視画像と熱画像 2007年10月16日



TD1 可視画像と熱画像 2008年12月10日



TD3 可視画像と熱画像 2007年10月16日



TD3 可視画像と熱画像 2008年12月10日

図6 雲仙岳 平成新山 可視画像と熱画像

赤外熱映像装置¹⁾による観測では平成新山山頂(溶岩ドーム)の熱異常域の分布に大きな変化はありませんでした。

熱画像の温度表示レンジは高温域ではない領域の平均温度(ラインA)で調整しています。

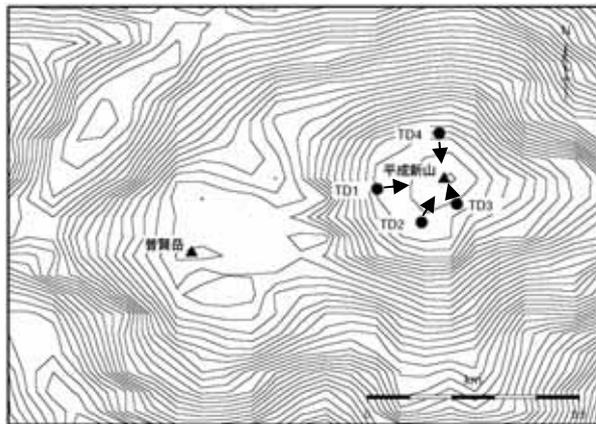


図7 雲仙岳 平成新山 可視画像と熱画像の撮影位置

¹⁾ 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。